

# 通信

● 82・12・30発行 ● 大阪市阿倍野区九田町2-12-2・(仮称)支社ビル2-2を記号会06-647-4087

本文検査(2)マーエス4、定額課(2)ななが、下(1)。(年面4月)同封紙(2)用紙(2)送金(1)トモ(2)にもおかし(1)。

## 陽気でおせい「今日」の仲間

12月27日  
札幌鉄道公判  
作勝

★ アイゼンシュタイン ★

12月21日の午後、僕は津軽海峡を渡って来た。運送船のデッキから見る海は紺色で、くもなき空の海を眺めるのは初めてだ。(さ)は、り外国だ(と)改めて思う。観光旅行ではないけれど北海道を旅するのは気が重く、(今)日本(が)アイゼンシュタインを出版して百年になる。恥ずかしい話ではないが、(今)の昔この広い北海道は私達の先祖の自由の天地でありました。天皇陛下は権虎の様に美しく大自然に抱擁されてのんびりと楽しく生活していた彼等は、真に自然の寵児、(今)という幸福な土産であった(と)しよう(マ)イ又神話集 京立 知里至康)

カムイウタリ(自然の万物)と共に生きるウレシバモシリ(互いが互いに育てあう大地)を自然茶葉茶にしたのが、今日の(今)北海道(を)はな(い)か。道南地域には、新日鉄富田や苫小牧王子製鉄がまがまがしくそびえたつ。巨大な工場群は、そのまは(ま)キーン水俣工場とオーバーラップする。陽光を反



### ● 東アジア反日武装戦線への ● 死刑重刑攻撃 ● 粉碎

射して銀目輝く煙突は、(ロ)ミムに突いたを(ま)た(ら)したエノラ、ゲイ鳥の機体(を)想(い)起(さ)せ(る)。

やさしい大森さん

12月22日の朝の時半、札幌拘留所を大森勝久さんに会う。大阪のハラハラ集団に四百五十人が集った華。その後(ま)支機(2)ユース読者の(ま)く(を)作(っ)て、30名(ま)り(が)必(ま)ず(を)結(ぶ)けて(い)る(こ)と。大森さんの(ま)を(ま)わ(ら)は(い)つ(も)考(え)て(い)る(ま)を(ま)伝(へ)た。

勝久さんは、妻(ま)の(ま)所(ま)の大森(ま)司(ま)の(ま)身(ま)の(ま)具(ま)が(ま)麗(ま)い(ま)争(ま)を(ま)じ(ま)り(に)心(ま)配(ま)して(ま)た。明日(ま)の(ま)23(ま)日(ま)の(ま)朝(ま)の(ま)責(ま)任(ま)陳(ま)述(ま)を(ま)頭(ま)の中(ま)は(ま)一(ま)杯(ま)だ(ま)ら(ま)に(ま)・(ま)ん(ま)が(ま)時(ま)を(ま)持(ま)つ(ま)こ(ま)ん(ま)の(ま)安(ま)否(ま)を(ま)言(ま)う(ま)彼の(ま)心(ま)根(ま)に、(ま)胸(ま)が(ま)締(ま)め(ま)つ(ま)け(ま)ら(ま)れる。

6年間の拘留生活にも(ま)か(ま)り(ま)ら(ま)ず、大森(ま)さん(ま)は(ま)元(ま)氣(ま)一(ま)杯(ま)だ(ま)た(ま)が、(ま)裁(ま)判(ま)の(ま)成(ま)り(ま)行(ま)き(ま)を(ま)確(ま)信(ま)して(ま)い(ま)る(ま)の(ま)け(ま)で(ま)は(ま)な(ま)い。 (ま)俺(ま)の(ま)裁(ま)判(ま)も、(ま)國(ま)家(ま)が(ま)や(ま)る(ま)の(ま)た(ま)か(ま)ら(ま)油(ま)断(ま)は(ま)る(ま)ま(ま)て(ま)ん。 (ま)ガ(ま)ル(ま)裁(ま)判(ま)に(ま)従(ま)つ(ま)て(ま)無(ま)罪(ま)判(ま)決(ま)し(ま)が(ま)ない(ま)と(ま)思(ま)う(ま)の(ま)が(ま)・(ま)殺(ま)さ(ま)れ(ま)たく(ま)ない(ま)で(ま)す(ま)よ。 (ま)少(ま)し(ま)を(ま)長(ま)く(ま)生(ま)きて、(ま)ま(ま)と(ま)一(ま)緒(ま)に(ま)生(ま)きて(ま)活(ま)動(ま)し(ま)て(ま)お(ま)り(ま)たい。 (ま)一(ま)回(ま)し(ま)が(ま)ない(ま)人(ま)生(ま)で(ま)す(ま)か(ま)ら。 (ま)・(ま)絶(ま)望(ま)し(ま)ず(ま)ま(ま)の(ま)華(ま)を(ま)ま(ま)く、(ま)し(ま)か(ま)も(ま)望(ま)しい(ま)希(ま)望(ま)に(ま)酔(ま)い(ま)し(ま)る(ま)こ(ま)も(ま)ない。 (ま)人(ま)間(ま)・(ま)それ(ま)が(ま)大(ま)森(ま)勝(ま)久(ま)さん(ま)だ。 (ま)それ(ま)だ(ま)け(ま)に、(ま)彼(ま)の(ま)元(ま)↓

大森さんの音見

陳述

12月23日。

弁護士の身録

弁論に続いて、大



